

第28回地方委員会の成功に向け、参加されました構成産別、地域を代表する各地方委員、特別地方委員、傍聴者の皆さん。ご苦労様です。

また、来賓として出席頂きました、上田新札幌市長、民主党 佐々木幹事長、労福協 渡辺理事長をはじめ、各労働福祉事業団体役員の皆さんにおかれましては時節柄、大変ご多忙にもかかわらず錦上花を添えて頂き、心から感謝しお礼申し上げます。ありがとうございました。

今次第28回地方委員会は昨年10月末の年次大会からすでに9ヶ月余りを経過し、本年度定期大会まで残すところ3ヶ月余となり、運動課題の総仕上げの時期であり、且つ国政補欠選挙、そして衆議院解散総選挙が必至という政治情勢のもとでの開催であります。

本来であれば、6月に開催し、春季生活闘争と統一自治体選挙を中心とする重点課題の総括と後半に向けた運動課題論議と意思統一の場としてすべきところでありました。

しかし、ご承知の通り、札幌市長選挙が再選挙となり6月8日投票日と云う異例の事態を受け、道都札幌市長選挙の上田候補当選に組織の総力を結集することとし、諸準備等の関係で本日の開催になったことをご了承願いたいと思います。

さて、本地方委員会の主要課題は冒頭申し上げました通り、2003春季生活闘争と第15回統一自治体選挙総括、そして当面する重点課題に対する意思統一の場でありませぬ。

昨年の大会から今日まで厳しい経済状況と労働環境のもとで、雇用確保、生活防衛の春闘をはじめとする諸闘争と組織強化拡大、そして21世紀の自治のあるべき姿と北海道の自立と再生、更には今日の政治を地方から変革するとの思いのもと今次統一自治体選挙闘争に総力をあげて活動してきました。この間の活動に対し各産別、地協、地区連合の役員はじめ、組合員、家族、諸先輩、更には多くの関係者の皆さんに心から敬意と感謝を申し上げます。

これらの総括については後ほど提起致しますので率直かつ忌憚のない発言をいただきたいと思いますが私はこの場をお借りして知事選挙を頂点とする統一自治体選挙についてふれさせていただきます。

それは、何といたっても最大の課題は知事選挙でありました。知事候補決定に至る経過と鉢呂候補決定が投票日1ヶ月余り前という異常事態の中での闘いとなったことであり、その結果は承知の通りです。

私どもは今次選挙の意義と位置づけ、そして新知事候補擁立の基本方針については、いささかも誤りはなかったと確信しています。しかし、当初知事候補の最適任者として逢坂二セコ町長の擁立方針決定のもと立起要請を行い出馬決断まちがいなしとの確信のもと準備作業を進める中で2月2日まさかの突然の不出馬となりました。

このことに至る背景や真の理由について私どもは今日に至っても不明であり知るすべもありませんし、予断や推測をもって語るべきではないと思います。

ただ明らかなことは、いかなる理由であろうとも擁立失敗と断念を余儀なくされたことは否定出来ない事実であり、このことがもたらしたその後の擁立作業の難航、各道議をはじめ各級首長、議員候補者と選対等はじめ多くの道民、有権者に与えた困惑と影響の大きさは図りしれないものがありました。

そして紆余曲折を経て、3月3日鉢呂議員がこの難局を打開すべく重大決意のもと立起を決断され超短期の闘いが展開されました。まさに時間との勝負、そして9名の乱立と云う中で善戦むなしく無念の涙を飲む結果になりました。

このことは単に鉢呂候補の惜敗にとどまらず、道議はじめ各級候補者の闘いに重大な影響をもたらし、多くの候補者の苦戦と当落にもかかわる結果となりました。

この場を通して今次統一自治体選挙の長期に渡る闘いに奮闘された組合員をはじめ、すべての皆さん、その先頭に立って闘われた鉢呂吉雄さんと家族、後援会のみなさんをはじめ支援いただいた道民、有権者の皆さん。更には鉢呂候補と共に闘われた各級候補者と支持者の皆さんに心からお礼申し上げますと共に誠に申し訳なく心からお詫び申し上げます。

とりわけ、鉢呂氏の重大な決断と道政にかける信念と情熱に応えることが出来なかったこと、そして本人の無念さを思うとき、その責任の重さを痛感し、鉢呂氏の政治への熱い思いと心情に応えるべくその責務を重く受け止め、しっかりと対処してまいる所存であります。

私どもは、この闘いを通して学んだ多くの教訓と反省の上に新たな道政への誤りなき対応、上田札幌市政誕生をバネに基礎自治体である市町村からの自治体改革、そして道政と国政の改革と云う命題に新たな決意で立ち向かって行かなければなりません。皆さんの更なる決意と奮起を訴えるものです。

さて、今日の私どもを取り巻く状況と環境を端的に表現するなら、日本経済と産業は停滞と後退から一向に改善されず、景気はますます冷え込み、国も地方も破綻寸前の赤字財政、そのすべてのツケと負担を弱者に押しつけ、その犠牲となっているのが圧倒的多数の善良な企業と経営者、そこに働く労働者とすべての勤労国民です。

バブル崩壊から既に10年余、一向に進まない不良債権処理と銀行の貸し渋りと貸しはがしは企業倒産と縮減を余儀なくされ、地域産業と経済の衰退、失業者の激増と先行不安による消費の後退、消費不況の更なる深化の繰り返しです。

このような中での2003年春季生活闘争の困難性と結果については総括に委ねることとしますが、今日の状況だからこそ、改めての春闘重視、企業別労働組合の個別分断に抗して闘うことの必要性と地場中小企業零細労組の統一指標と要求、統一闘争の重視の再認識と内実の豊富化が不可欠です。

また、道内の厳しい経済状況と雇用実体については詳細にふれるまでもなく止まるこ

との知らない相次ぐ企業倒産、リストラ等々による失業者1～3月8.1% 23万人、我々の仲間である檜崎製作所、東日本フェリーの民事再生法申請による雇用問題、更には季節労働者冬期援護制度廃止の動きなどあげれば際限ありません。

これらの緊急課題は勿論、雇用と生活を守る闘いの更なる強化が求められています。

これら今日の日本の姿、それは小泉政治の本質と実態を如実に示すものであり、小泉政権いや今日の自民党政治そのものを変える以外に現在も将来も展望が拓けません。

鉢呂氏辞職に伴う補欠選挙態勢確立も急務です。

また、解散総選挙必至と云われている状況を踏まえ、その闘いへの準備が急がれます。

これらについては後ほど提起致します。

最後に今年10月予定の定期大会は2年に1度の本大会であり、向こう2年間の運動方針を決定する重要な機関会議であり、目前に迫っています。同時に現執行部任期満了に伴う役員改選期です。

今地方委員会以降、大会方針作成作業に取りかかると共に新役員体制確立の作業にあたって頂くこととなります。

私ごとになりますが私は、今次大会の任期満了を機に退任する考えであり、次期体制の確立にあたっては、役員推薦委員会を中心に各産別の協力のもと今日の厳しい情勢に立ち向かう「清新で強力かつ柔軟な総合力を発揮できる強固な執行体制確立」にあたって頂きたいと思えます。

残された期間、当面の諸課題に対し、執行部一丸となって全力で取り組む決意であり皆さんの一層のご協力をお願いします。

第28回地方委員会の成功に向けた皆さんのご協力をお願いし、挨拶と致します。